

第13回（2013年3月10日）向け建設業経理士検定試験 2級出題予想

	第1予想	第2予想	第3予想
第1問	仕訳問題 ・建設仮勘定・当座借越・消費税・固定資産の除却・手形の裏書譲渡		
第2問	銀行勘定調整表 債権の評価(償却原価法) 買収 本支店会計	工事進行基準 有価証券の分類・評価 特殊仕訳帳 剰余金の配当	総合償却 退職給付引当金 株式の発行 貸倒引当金
第3問	部門別計算(階梯式配賦法)	材料費会計	原価の分類
第4問	完成工事原価報告書の作成+理論問題		工事原価明細表+理論問題
第5問	精算表の作成		

なぜこう予想した？

第1問の仕訳問題は、ほとんどが限られた論点からの出題になっています。予想に挙げたものを確実にマスターしておきましょう。上で挙げたものの他に過去の試験で出題されている論点として、法人税等、貸倒れ、仕入割引、工事進行基準による完成工事高の計上などがあります。なお、解答にあたっては、勘定科目の記号まで記入することが要求されますので、選び間違い、書き間違いに気をつけて下さい。

第2問は、計算問題が問われており、傾向として単純な計算問題の他、勘定記入や取引の一連の流れの結果に関する問題も出題されることがあります。いずれにしても、内容そのものは基本的な内容で、他の問題の対策と合わせてできるものが多いので、第1問や第5問対策と合わせてテキストの内容を確認しておきましょう。

第3問と第4問ですが、前回の第12回ではこれまでと逆の問題番号で出題されました。これが第12回だけのことなのか、今後も続くことなのか、1度の実績で判断するのは尚早であると考えられるので、この予想では、第11回までの傾向に即して予想することにしました(番号が入れ替わっただけで中身に影響はありませんが…)。

第3問は、費目別計算と部門別計算のうち、第7回から出題されていない部門別計算(階梯式配賦法)を第1予想としました。また、材料費会計(先入先出法と平均法)も第4回から出題されていないため、第2予想としています。第3予想では、第8回に出題されたような原価の分類が再度出題される可能性を考慮しました。

第4問では、完成工事原価報告書作成出題が圧倒的に多いため、こちらを優先的に対策しておくことがよいでしょう。ただし、第2回・第7回に出題された工事原価明細表の可能性も考えられることから、こちらを第3予想としています。理論問題については、記号問題である点や配点、学習の効率を考えると試験対策の優先順位は下げても問題ないと思います。

最後に、第5問です。第5問は毎回精算表の作成となっています。ポイントは、決算整理事項の仕訳となりますが、毎回下記の論点を中心とした出題となっています。その他にも、かなりの確率で出題されるお決まりの論点もあるので、これらのパターンをしっかりマスターしておけば高得点を狙えるでしょう。

《決算整理事項》

- ・貸倒引当金の設定
- ・退職給付引当金の設定
- ・法人税、住民税及び事業税の計上
- ・減価償却費の計上
- ・完成工事原価の算定

合格目指して
ラストスパートだ！

